

行政 トピックス



**教育のあり方・将来像考え
有識者により議論を進める**

—南丹市教育の在り方懇話会—

南丹市教育委員会は6月2日、今後10年間を見通す中で、本市におけるこれからの教育のあり方や目指す教育像などについて議論を深める「南丹市教育の在り方懇話会」を、有識者5人により設置



▲市の現状を確認し議論すべき事項を確認

慌てず、騒がず、落ち着いて

—地震を想定した避難訓練—

園部第二小学校で6月6日、地震を想定した避難訓練が実施されました。毎年、火災を想定した訓練が実施されていますが、東日本大震災を受け急きよ実施。地震が発生したとの想定で、子どもたちはまず机の下に隠れた後、先生の指示に従って体育館へすばやく移動しました。

訓練後には、実際に南三陸町へ救出活動に行かれた園部消防署の水主みずぬしさんの体験談を聞き、震災

し、初会合を行いました。

森教育長から「今後、市としてのどのようなビジョンを持てば良いか、ご意見をいただきたい」との投げ掛けに対し、座長の山口満氏（筑波大名誉教授）は「一つ一つの学校、一つ一つのクラス、そして一人一人に対しどのように目を向けるかが大切になってくる。旧4町の特色を残しながら、市としてのトータルなビジョンを考える必要がある」と述べられました。

本懇話会は、今年度中に3回程度開催し、年度内に提言をいただく予定です。



▲頭を帽子や座布団で守って非難する児童

被害の大きさを知るとともに、自分の命は自分で守ることの大切さを学んでいました。

また、懇話会の議論をベースとして、急激な少子化の進行などを背景とした学校教育環境について検討を行う「学校教育環境整備等検討委員会」と、中学校における給食のあり方を軸に、今日求められている学校給食について検討を行う「中学校給食在り方検討委員会」も同時に設置し、委員会を開催しました。

いずれも有識者13人により構成され、前者は今年度中に5回程度、後者も今年度中に3回程度開催し、年度内に答申をいただく予定をしています。

**園部まごころステーション
皆が集える交流の場として**

—竣工・開所式典—

4月23日、園部まごころステーション「陽だまり」の竣工・開所式典が南丹市国際交流会館で開催されました。式典の後、場所を現地に移し、テープカットと除幕式、施設内の見学などが行われました。当施設は、南丹市内に拠点を置く社会福祉法人「京都太陽の園」が、園部町本町にある築200年の古民家を改装し開設されたものです。今後は、障がいのある方の地域活動支援、就労支援、相談支援の拠点として、また地域住民との協働の場として活動されます。



▲竣工・開所を祝いテープカット